

珪藻分析

珪藻は植物プランクトン的一种で、単細胞生物である。表面に珪質な殻をもつこと、多量に発生すること、種類ごとに形が違い、様々な環境に適応して住み分けしているのが特徴である。このため堆積物中に多量に残りやすく、水域の復元に有効である。堆積物が安定している時は比較的局地的な状況をよく反映し、古環境解析(水域の復元)に有効である。また、陸生珪藻とよばれる比較的乾いた場所を好む種類もあり、遺構構築時の環境推定にも役立つ。土壌中の含量が多いため、少ない土壌(10~20g)で分析が可能である。

・古地理復元

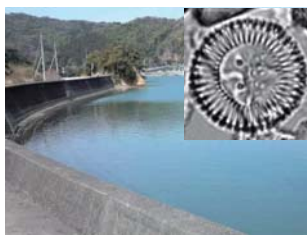
縄文時代の遺跡では、縄文海進時の影響やその後の水域環境変化について復元できる場合がある。また、この結果を面的に広げることによって、遺跡周辺の古地理の推定に役立つことができる。

・遺構の用途説明

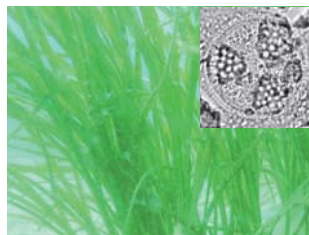
トイレ遺構とされる遺構で海産物に付着する珪藻が多産したり、製塩遺構とされる土坑覆土において海生種の珪藻が多産した例がある。また、水質の生物指標として有効であるため、遺構の水質の判定に用いることができる。

・土器の用途と胎土の由来

土器胎土に含まれる珪藻化石を調べることによって、土器作製時に使われた生地や混和材に関する情報が得られる。また、製塩土器などでは、土器に海水生種が付着していることがあり、用途の検証が可能な場合もある。



内湾
Cyclotella striata



藻場
Cocconeis scutellum



干潟
Opephora marty



河川
Placoneis elginensis
var. *neglectar*



池沼
Aulacoseira ambigua



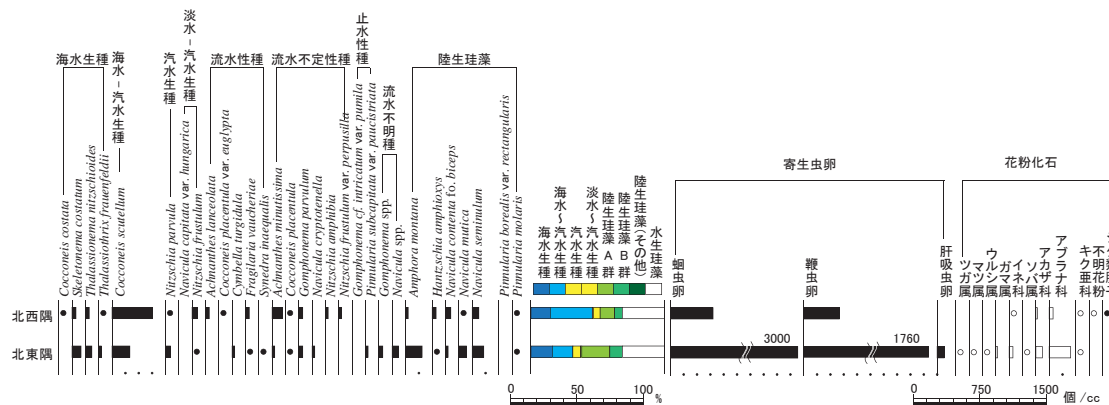
沼沢
Eunotia praerupta var. *bidens*



湿原
Frustulia saxonica



陸域
Hantzschia amphioxys



トイレ遺構(紀尾井町遺跡)の分析結果(台地上の遺跡にもかかわらず海産に付着する珪藻が多産する) Palyno No.4より

